大磯町立大磯中学校

研究テーマ：学ぶことで仲間とつながり、社会とつながり、自分を高められる授業づくり

１、実践の目的

本校は、学校行事や生徒会活動が活発で、学習にも意欲的な生徒が多く在籍する。一方、教室に居場所を感じられなく、保健室や学習支援室などに居場所を求める生徒や欠席が多い生徒も少数ではあるが、一定数在籍する。また、クラスメイトとの関係を上手く築くことができず、トラブルやいじめなどの生徒指導事案に発展することもある。このような生徒たちが教室の中に居場所を感じ、ともに学ぶためには、どのような授業づくりをしていくことが必要なのか。生徒が授業を通して、学習内容だけでなく人との関わり方や学び方を学ぶ授業とはどのようなものなのか。

本実践では、すべての生徒が安心して学び合い、教室に居場所を感じられる授業づくりを目指して行ってきた。その中でも「探究と協同の学習」「同僚性の構築」をキーワードに授業づくりと研修システムづくりを行った。

２、実践の内容

(１)研修の主な内容と年間計画

研修の主な内容は、「授業公開」と「リフレクション(省察)」である。年度当初にすべての先生に授業公開することをお願いし、その公開した授業から学び合う研修スタイルで実践してきた。すべての先生に授業公開を義務付けたのは公平・平等な研修にするためである。一部のすばらしい(といわれる)授業や若手の先生のみの授業公開を行っていては、安心して授業を開くことができないからである。どの先生の授業からも学び合うことで、多様な経験・経歴を持つ職員集団の同僚性の構築につながるはずである。年間を通して、全職員の授業公開を行い、その授業から学んできた。

【年間計画】

４月　全体研修(研修の概要についての説明)
５月　第１回全体研修会(２年・数学)
９月　第２回全体研修会(２年・理科)
　　　※講師招聘
10月　教科での授業検討会
１月　講師の先生による個別の授業リフレクション※2 回実施
　　　外部の研究会への参加
２月　第３回全体研修会(2 年・音楽)
　　　教科での授業検討会
３月　学年での授業検討会

➔上記の研修会以外に初任研や臨任研などの公的研修、地区の研究会での授業公開などを活用し、すべての先生が授業を開く体制を整えた。

(2)研修方法の工夫

授業公開を行う研修会では授業を公開する先生にとっての自分自身の授業を振り返る機会にもなるが、それ以上に授業の参観者も自分自身の実践を見直す機会にもなる。そのため、研修会では授業の振り返りであ

るリフレクションの時間を重視した。また授業者には授業準備の負担を減らし、授業の計画に縛られずに、授業者が即興的に応答できる余地を残すために指導案の作成は簡単なものにした。また公開授業後のリフレクションでは、次のような約束ごとをもとに進めた。

①教室で起きた事実をもとに自分が学んだことを自分の言葉で語る。
②授業の良し悪しや質問は行わない。持論は語らない。
③具体的な生徒の個人名を出しながら、エピソードで語る。
④参観者は全員発言する。

この４点である。この方式を全体研修会だけでなく、教科や学年での授業検討会でも実施した。全体研修会ではすべての教員が参加するが、教科での検討会や公的研修での授業公開は参加者が限られる。そのような場合も「校内研だより」を配付するという形で授業の様子や振り返りの内容を職員間で共有している。

３、実践の成果

３回の全体研修会を通して、１番の大きな変化はリフレクションでの１人ひとりの先生の発言の質の向上である。１回目の研修会では授業者の授業の工夫に対するコメントや自分の教科だったらこうするといった持論が多くみられたが、２回目から生徒の個人名、３回目から生徒同士の関係についての発言が中心になってきた。その中で、支援が必要な生徒が周りの生徒とどのようにつながり、教室の中で学んでいるかなどの視点で語る先生もいて、授業を見る視野の広がりが感じられた場面であった。

年度末に行ったアンケートでは、今後さらに「学習指導要領で示されている主体的・対話的で深い学び」が生徒に必要であり、教科を問わず多様な先生の授業から学び合う時間が必要だとの回答が多く得られた。

授業公開を継続することを通して、学年内の教員同士で授業を参観し合う文化ができたり、グループやペアなどの協働的な学習を取り入れたりする先生、ICT 機器を活用したふりかえりを実践したりする職員が増えるなどのよい面が見られた。

４、今後の展開

今年度は「すべての教員が授業公開をする」という目標を達成することができたので、次年度は授業の質、リフレクションの質をさらに向上させることが目標である。１人ひとりの先生の授業は工夫されていて、協議会での生徒を見る視点もすばらしいが、それが集団の知、集団の視点になっていないことが課題である。課題のある生徒がどうやったら教室の中で仲間との関係を築き、教科の内容に向かうことができるか。リフレクションを通して深めることができるかが次年度の研修の課題である。

また生徒を仲間とつなぎ、夢中にさせる課題づくりをするためには教科の専門性が必要である。教科の専門性を向上するために外部の専門家との協働も研修システムに取り入れていきたい。次年度は月 1 日の研修日を設け、全体研修がない月も毎月 1 度は集まって日常の授業を振り返る時間の確保にもつとめたい。